

岩舟地域会議だより

2015年12月 第2号

新しい地域自治制度が始まっています



1 栃木市地域自治交流会 開催される

10月17日(土) 西方総合文化体育館において、地域自治交流会が開催されました。会場には栃木市内8地域の地域会議委員百余名が出席しました。交流会では最初に地域予算事業計画書の提出が行われ、市内8地域の地域会議会長から鈴木市長に計画書が手渡されました。岩舟地域における地域予算事業は「ふるさと案内板設置事業」を計画しました。(詳細は下欄をご覧ください。)



2 岩舟地域予算提案事業 「ふるさと案内板設置事業」に決まる

交流会の後半には地域活性化伝道師 前神有里先生まえがみゆりによる研究会がありました。参加した地域会議委員は出身地域とは無関係に班分けされたテーブルで、ふれあい囲碁というミニサイズの囲碁を通じて自己紹介をしました。その後愛媛県職員でもある前神氏から学校校舎を利用した市民交流事業、空き家を活用した移住促進事業等伊予市のまちづくり活性化事例の紹介がありました。地域会議委員はそれらの事例を基に意見を交換し、和やかな雰囲気での交流を深めました。



栃木市の新しい自治制度のひとつである「地域予算提案事業」は多様な地域課題を効率的に解決するため、地域会議が一定の枠内で予算の使い道を考えるものです。事業実施は平成28年度からになります。

地域会議の中で岩舟地域の課題として少子高齢化により、自治会の会員数も減少し、各種行事等も縮小されて、地域住民の連帯意識が希薄になっていること。また、自治会数が多く、地域住民であってもその所在や地名の由来を理解していないこと等が挙げられました。



栃木市都賀町の設置例

そこで課題解決のための事業として、平成28年度岩舟地域では、「ふるさと案内板設置事業」を実施することにしました。希望する自治会等に地域の名称やキャッチフレーズなど、『ふるさと』をアピールする案内板の文面等を考えてもらい、岩舟地域で統一したデザインの案内板を設置する、というもので、設置場所の選定や管理等は、地域で行います。事業費は291万6千円です。



新潟県村上市 村上商工会議所の設置例

第4回地域会議報告

日時 平成27年8月27日(木)

議事① 平成28年度

地域予算提案事業について

前回までに3つに絞った候補事業について事業の優先順位、事業内容、行政と地域の役割について協議しました。

協議の結果以下のとおり決定しました。

- ①平成28年度については事業を一つに絞り進める。その事業については優先順位が一番目とされた自治会案内板の設置について「ふるさと案内板設置事業」として実施する。
- ②優先順位2については平成28年に情報収集し、平成29年度に取り組んでいく。
- ③優先順位3については教育委員会で対応中であることから、どうしても早急に対応を要するところについては意見書の提出等別的手段も検討する。

詳細は次回以降話し合うこととする。

3事業の事業内容、行政と地域の役割については以下のとおり決定しました。

●優先順位1

ふるさと案内板設置事業

岩舟地域内ではばらばらのデザインでなく統一したほうがいい、という意見があり、材料調達や設置は行政の役割としました。案内板に載せる地名の由来、スローガン等を考えるのが地域の役割としました。

●優先順位2

栃木市図書館岩舟館内の

郷土資料の充実化事業
内容は郷土資料図書との郷土資料のデジタル化です。

行政の役割として郷土の偉人である円仁や小野寺氏に関する資料の購入、埋もれている郷土資料の発掘、発掘した資料のデジタル化になりました。地域の役割は学習会への参加、郷土資料の情報提供としました。

●優先順位3

通学時の安全確保事業

行政の役割としては路側帯への舗装、センターライン消去等の研究としました。地域の役割としては危険個所の調査、登下校の見守りとなりました。

第5回地域会議報告

日時 平成27年9月25日(金)

議事① 報告

佐野インター周辺開発事業費について

【産業振興部 産業基盤整備課】

概要

本市の経済活性化、地域雇用創出のための産業拠点を整備開発する候補地として、藤岡町太田、岩舟町静にかかる80ヘクタールのエリアについて可能性を検討してきました。

今後は地元地権者の合意形成を図りながら協議検討するため、佐野藤岡インター周辺土地利用研究会を設立し、地元地権者とともに事業を推進します。

第6回地域会議報告

日時 平成27年10月29日(木)

議事① 報告

小野寺北小学校旧校舎の保存について

【教育委員会 文化課】

概要

岩舟町時代に解体の方向であった小野寺北小学校旧校舎については、地元で保存運動が起きたことから、その取扱いについては合併後の栃木市に委ねられ、平成26年度補正予算において調査費を計上し、調査を行

いました。調査報告書では歴史的価値を認めているが、関係課協議の結果、建物が土砂災害特別警戒区域及び警戒区域内にあることから利活用が困難であり、移築・保存復原には多額の費用がかかることから、一部の建物部材を保存し、また建物全体の詳細な記録を残すことで、小学校の歴史を後世に伝えるものとし

第7回地域会議報告

日時 平成27年11月26日(木)

議事① 意見聴取

栃木市文化振興計画実施細目(素案)について

【教育委員会 文化課】

平成27年3月に策定した栃木市文化振興計画に基づいて具体的な事業を整理した実施細目(素案)の「各地域における文化振興の施策」部分について意見聴取がありました。

〈地域会議の意見〉

原案通り了承するとなりました。

議事② 意見聴取

栃木市都市計画マスタープラン(改正版)素案について

【都市整備部 都市計画課】

平成26年3月に策定された栃木市都市計画マスタープランについて、平成26年4月5日に合併した岩舟地域の追加、経年変化による文言等の修正及び栃木市総合計画（改訂版）との整合を図った「栃木市都市計画マスタープラン（改訂版）」を策定するに当たり意見聴取がありました。
 〈地域会議の意見〉
 原案通り了承するとなりました。

議事③ 情報提供

栃木市生活排水処理構想（案）の

策定について

【建設水道部 下水道課】
 栃木市生活排水処理構想（案）についてパブリックコメントが実施されるとの情報提供がありました。

議事④ 報告

まちづくり実働組織について

【岩舟総合支所 地域まちづくり課】
 概要

岩舟小学区では11月7日に説明会を実施し、設立準備会を立ち上げる（詳細は下欄をご覧ください。）ことになりました。静和小学校区、小野寺南小学校区、小野寺北小学校区ではどのようにすべきか協議しまし

た。協議の結果、他の小学校区においても岩舟小学校区同様に説明会を実施することになりました。

今後の地域会議の予定

- ◇第9回 1月28日（木）14時～
 - ◇第10回 2月26日（金）14時～
 - ◇第11回 3月24日（木）14時～
- 会場はいずれも岩舟総合支所
 会議室棟 1階 第1会議室

※会議は傍聴できますのでご希望の方は開始時間までに会場にお越しください。

3 まちづくり実働組織関連情報

まちづくり実働組織
 説明会開催される

11月7日（土）岩舟公民館において岩舟小学校区の区長、自治会長を対象にまちづくり実働組織に関する説明会が開催されました。平成27年度から運用が始まっている新しい自治制度についての説明、その中でまちづくり実働組織の位置づけ、まちづくり実働組織の果たす役割について説明があり、岩舟地域における考え方、想定される組織、進め方について説明がありました。それを踏まえて、岩舟小学校区を

範囲として、まちづくり実働組織設立準備会（以下準備会）を立ち上げることにしました。岩舟小学校区の区長、自治会長で組織される準備会では今後地域共通の課題、主によいものに取り組むか、それによいもののような組織とするのが有効なのか等具体的方策等について話し合いを重ねていく予定です。



駒場地域防犯部会を設立

11月20日（金）岩舟公民館において、駒場地域防犯部会の設立総会が開催されました。近年子どもや高齢者を狙う悪質な犯罪が多発しており、誰もが犯罪に巻き込まれる可能性はあるということ踏まえ、「自分た

ちの地域は自分たちで守る」をスロークリガンに防犯活動を進める組織として、はじめの一步を踏み出しました。今後は子どもの登下校を見守るパトロール、高齢者を狙った悪質商法についての勉強会等を実施していく予定です。

問い合わせ先

会長 若田部

携帯 090-2306-4503

55-2152



お茶飲み会に
 参加してみませんか

1月26日（火）午後6時～静和地区公民館において、静和2区（静和駅前第1、第2、第3、学校前、赤塚、赤羽根、林中原の7自治会）を対象に「住みよい地域」を考えたお茶飲み会を実施します。年齢性別は問いませんので是非お運びを！
 静和2区では定期的に住みよい地域を考える集まりを開催しています。

問い合わせ先

静和2区長 小野

55-4930

4 地域の話題

いわき市「みんぶくネット」 赤池氏の講話を拝聴

10月22日（木）岩舟地域自治会連合会が主催する「防災について考える研修会」に24名の自治会長、自治会役員が参加しました。

いわき市内の仮設住宅を案内していただいた後、いわき市社会福祉センターで「みんぶくネット（特定非営利活動法人3・11被災者を支援する いわき連絡協議会の略称）」の赤池孝行事務局長にお話を伺いました。

以下参加者感想より。

『興味深い話がいくつもあった。ひとつは災害時の人間の心理は弱いものだということだ。避難生活者はただでさえ大きな災害に遭遇してしまったというショックを抱えながら、わが家ではないところで生活を始めなくてはならない。避難生活も始まった当初は気疲れもないが、避難生活が長くなるにつれ、ストレスが蓄積してくる。他人とちよつとでも違うことに敏感になっていく。その一例が同じ場所に建てられた構造が違う2種類の仮設住宅である。これは供給元が2カ所ということで生じてしまった事態だが、ロフトがある住宅の住人と無い住人との間でひと騒ぎ起きてしまった。避難生活の終わりが見通せない中で、一問しかない



仮設住宅ではそのような思いになるのはやむを得ないのかもしれない。そういった様子を間近で見ていた講師の赤池氏はよりよい避難生活を送るための人間関係の改善に心血を注いできた。そして、今も注ぎ続けている。頭が下がる思いだった。

防災訓練の練り直しという話も心に残るものだった。

今までの大規模な地区の代表者と、関係者が集まって行う防災訓練は大規模な災害の場合には役に立たない。消防訓練で大活躍する自衛隊、警察、消防隊も大規模な災害ではすぐに自分

11月22日（日）遊楽々館において岩舟地域自治会連合会、栃木市社会福祉協議会岩舟支所の共催でHUGが開催されました。

HUGとは「避難所（H）運営（U）ゲーム（G）」の略で災害時の避難所となる体育館の平面図に避難者に見立てた力



HUGを開催

たちのところに来てくれるとは限らない。自衛隊や消防隊が来るまでは一人一人の市民が生命・財産を守らなければならない。そのために「顔の見える仲間同士が助け合わなければならない」という考えに至り、顔の見える町内会単位で行うことにしたそうだ。

それにより自分の家の周りにどんな人がいるか、自分の家から避難所までどう行くのか、避難所に行つてからどうするか等具体的に考えるようになる。

震災を経験した人の貴重な教訓であると感じると同時に地域の一員として忘れず持つておきたい視点だ、と思った。』

ードをどのように配置すればより良い避難所生活を送れるかを考える、図上シミュレーションゲームです。

一般の方、自治会役員、自治消防団員等36名の参加者は6つの班に分かれて避難所の運営者になりました。埼玉県北部を震源とする大地震が発生し、ライフラインが途絶えているという想定で、「妊娠6か月乳児連れ女性」、「80歳寝たきり男性」、「ペット2匹が一緒の一家」等々集まってくる避難者の対応を考えながら避難者カードを配置しました。ゲームの途中で避難者からの難しい要望があったり、外部のマスクミ関係者の取材依頼が入ったりして参加者が頭を抱える場面も見られました。

岩舟地域会議だより第2号

平成27年12月20日発行
 岩舟地域まちづくりセンター
 （岩舟総合支所 地域まちづくり課内）
 〒329-4392
 栃木市岩舟町静 5133 番地 1
 電話 0282-55-7751 fax 0282-55-4910
 E-mail : i-chiiki@city.tochigi.lg.jp